

# 2025年度 徳島文理大学 看護学科 雇用者（病院）アンケート調査結果

## 調査概要

### ○ 調査目的

このアンケートは、徳島文理大学保健福祉学部看護学科の教育内容と、卒業生が職場で実践している能力との整合性を評価するために実施しました。具体的には、卒業生が職務遂行上、必要とされる知識や技術、コミュニケーション能力、倫理観などをどの程度身につけているかを、雇用者の視点から評価していただき、現場での実践力を確認しました。したがって各質問項目は看護学科のディプロマポリシーに沿った内容とし、臨床現場の状況に合わせて表現を工夫しました。

以上により、卒業生がどのような分野で強みを発揮しているか、また、どのような資質が今後さらに強化されるべきかを明確にし、今後の教育内容の改善に役立ててまいります。

### ○調査対象

2022年3月から2024年3月までに卒業した学生が入職した病院

### ○調査期間

2025年8月22日（金）～2025年9月12日（金）

### ○調査方法

郵送によりアンケート用紙を送付。回答はGoogleフォームを利用。

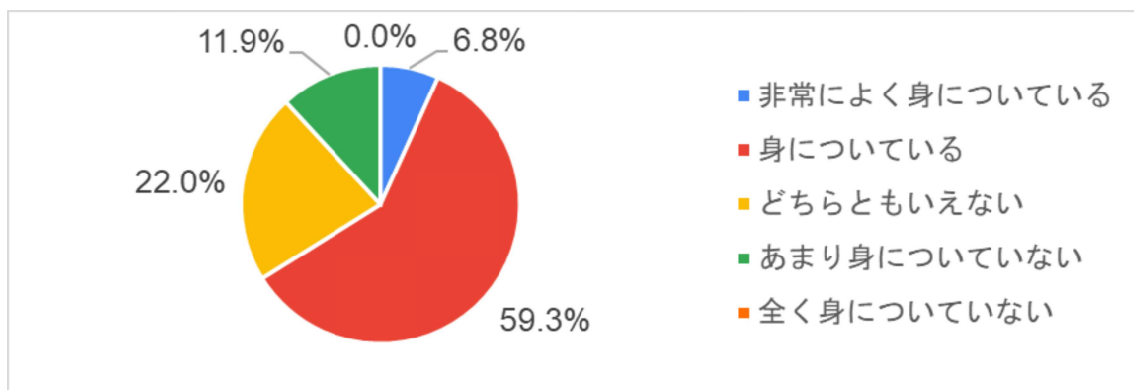
### ○回答率

59/120 (49.2%)

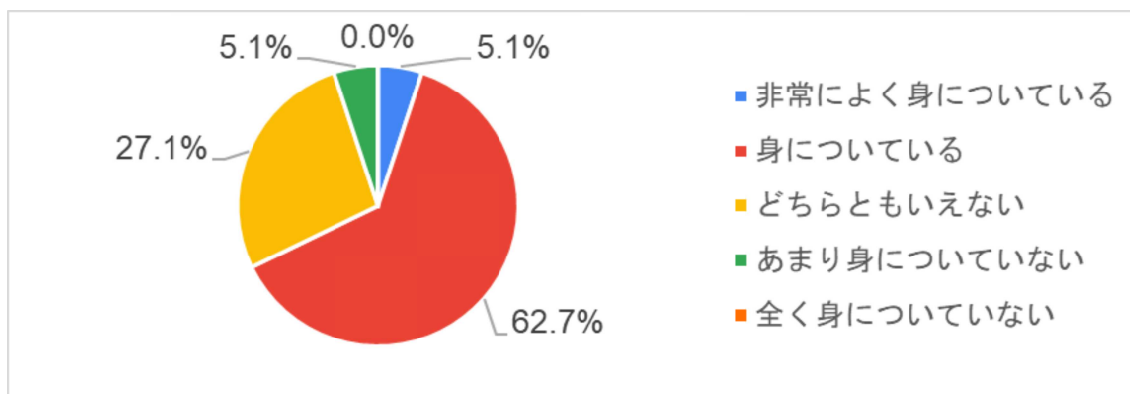
- 1 近年の本学卒業生は、入職時において職務遂行上必要とされる能力がどの程度身についていますか。複数の採用者がいる場合は、全体のイメージでお答えください。なお、助産師として入職している者につきましては、質問を助産師の場合に敷衍してお答えいただければ幸いです。

### 【知識・理解】

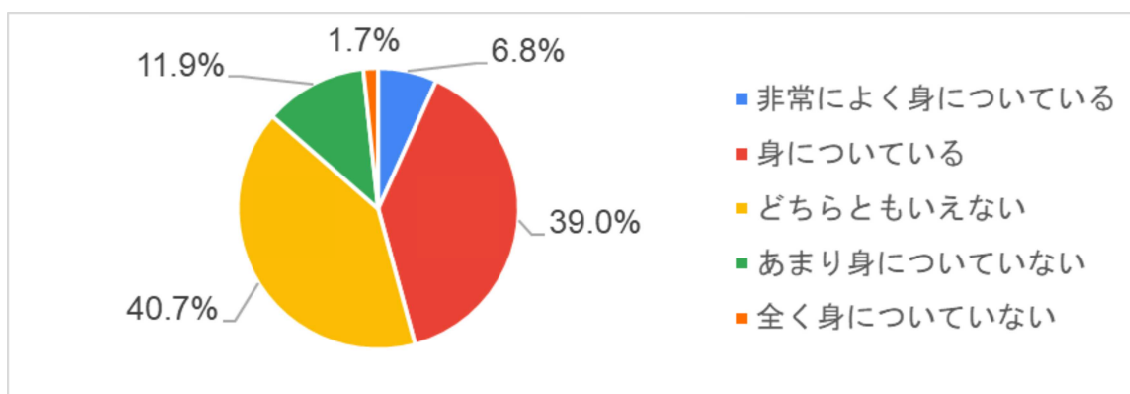
- ①基本的な看護技術の知識（バイタルサイン、清潔ケア、投薬管理など）



②健康と健康障害に関する基礎知識

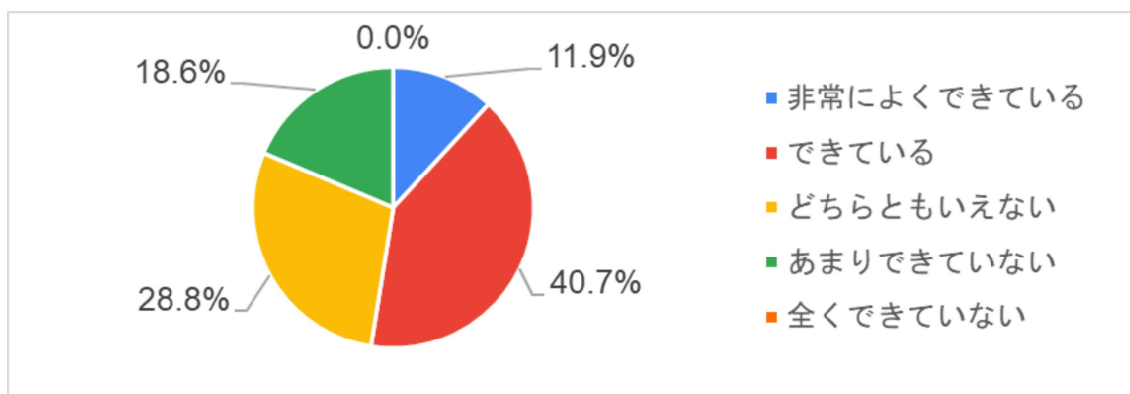


③チーム医療における看護師・他職種の役割理解

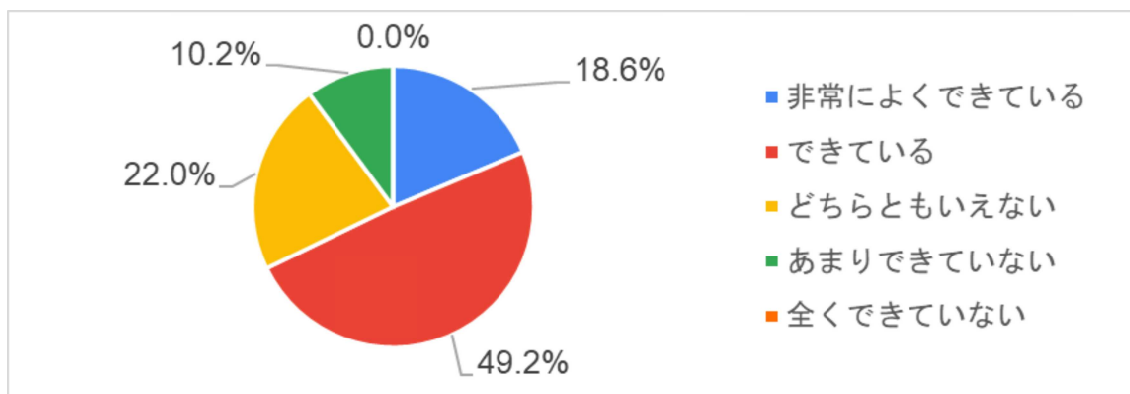


【技能・表現】

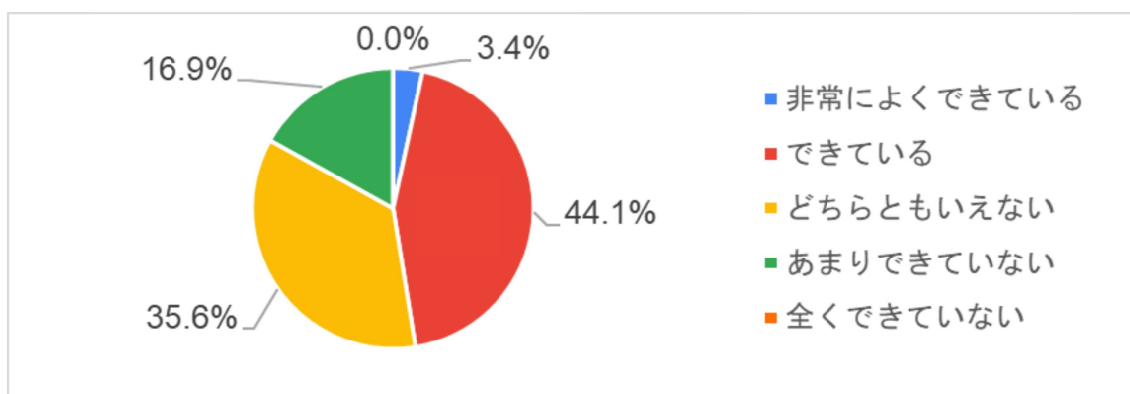
④患者・家族へのわかりやすい説明と傾聴姿勢



⑤他の医療スタッフとの協力的な関係を構築しようとする姿勢

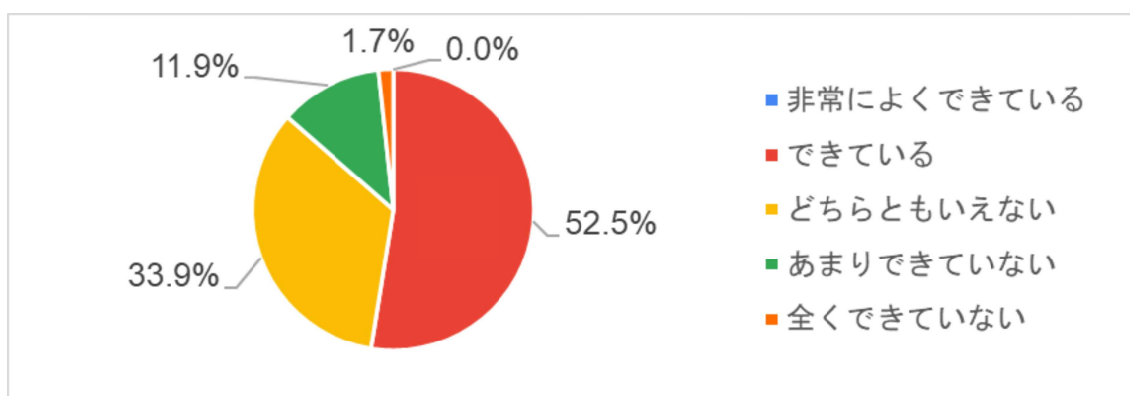


⑥医療安全・感染対策の基本的技術

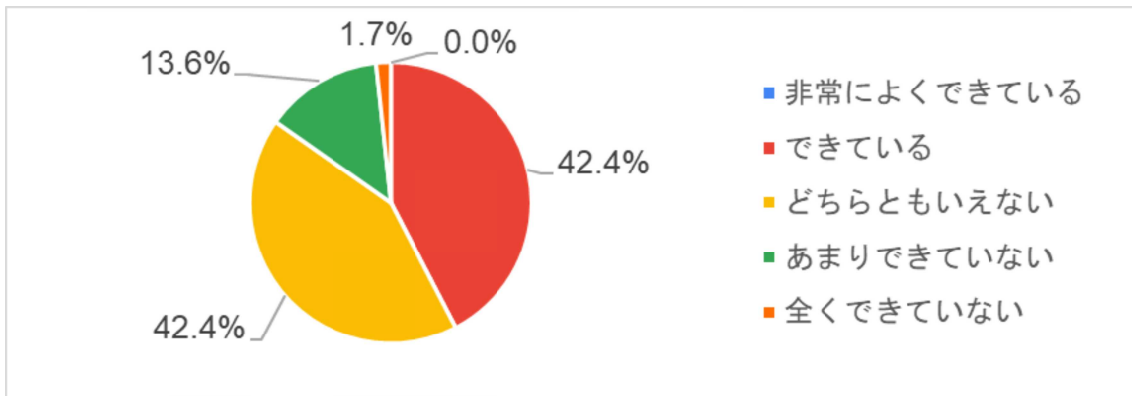


【思考・判断】

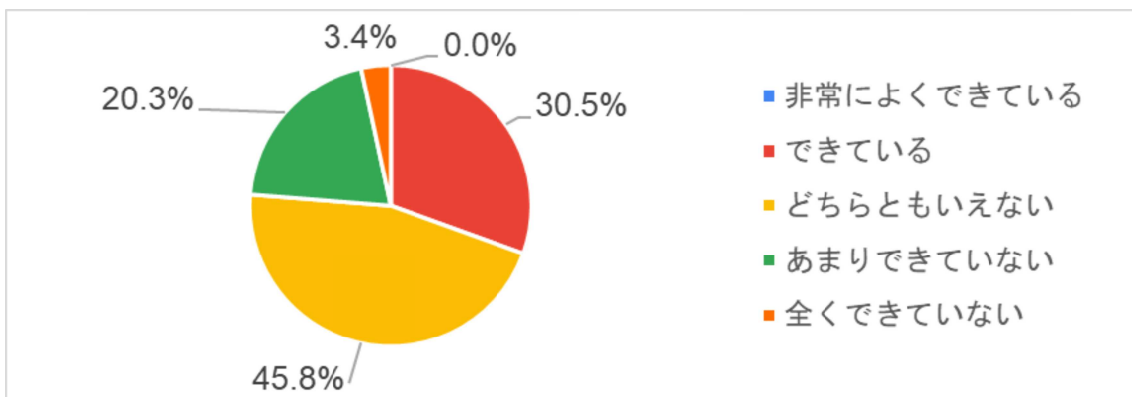
⑦情報収集とアセスメントの基本的知識



⑧看護計画の立案と適切な介入の基本的知識

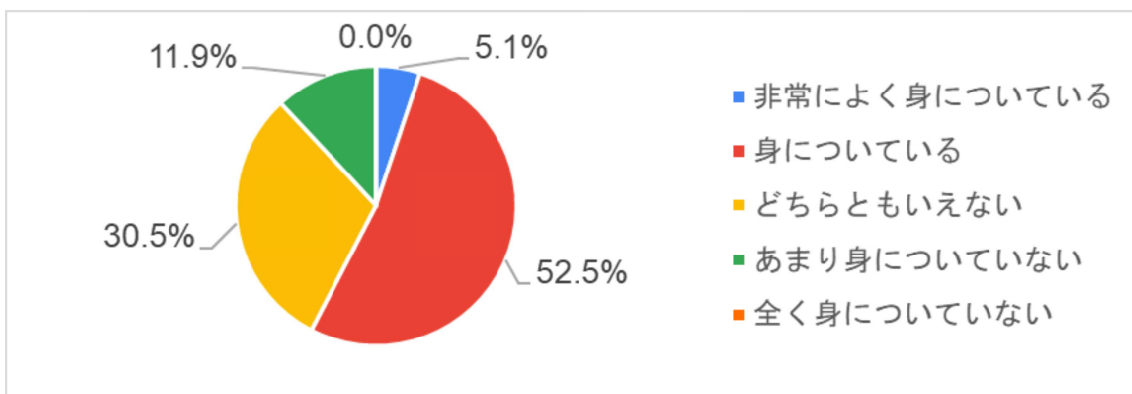


⑨臨床上の問題に対する基本的な判断力と解決力

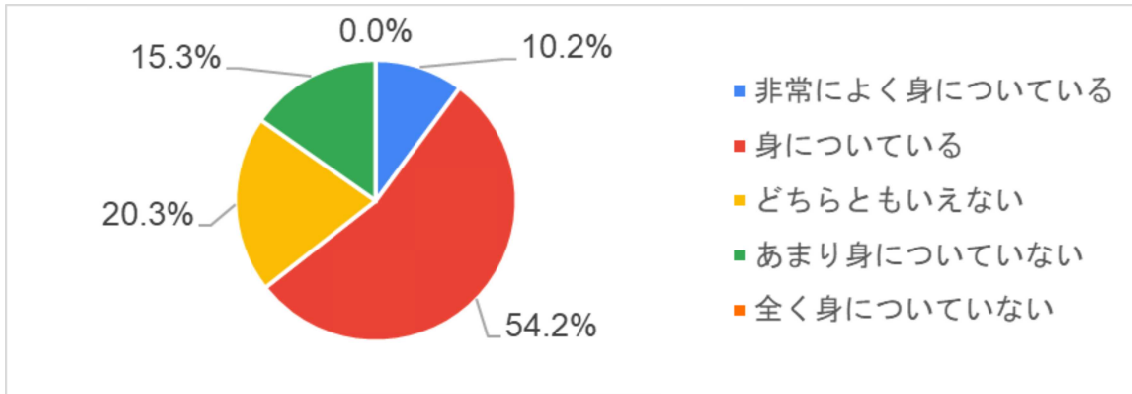


【関心・意欲・態度】

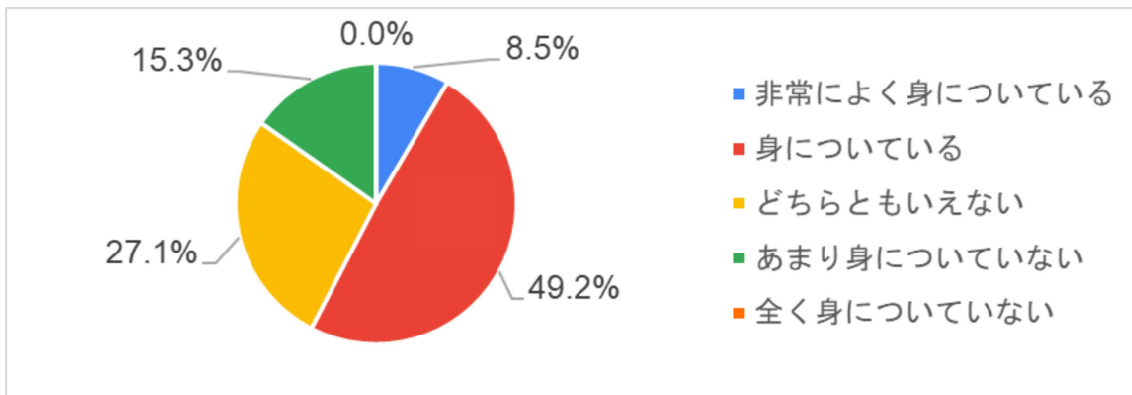
⑩看護倫理（人間愛や生命への畏敬の念）



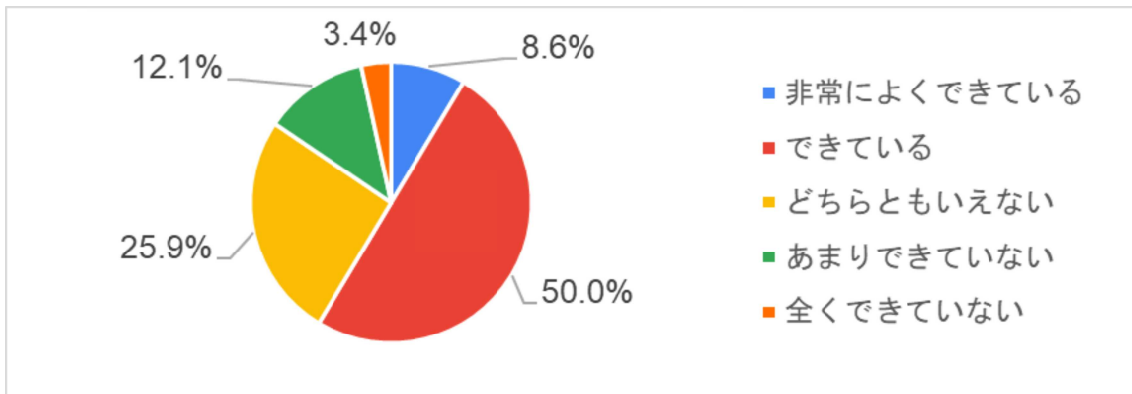
⑪教育・研修への参加意欲



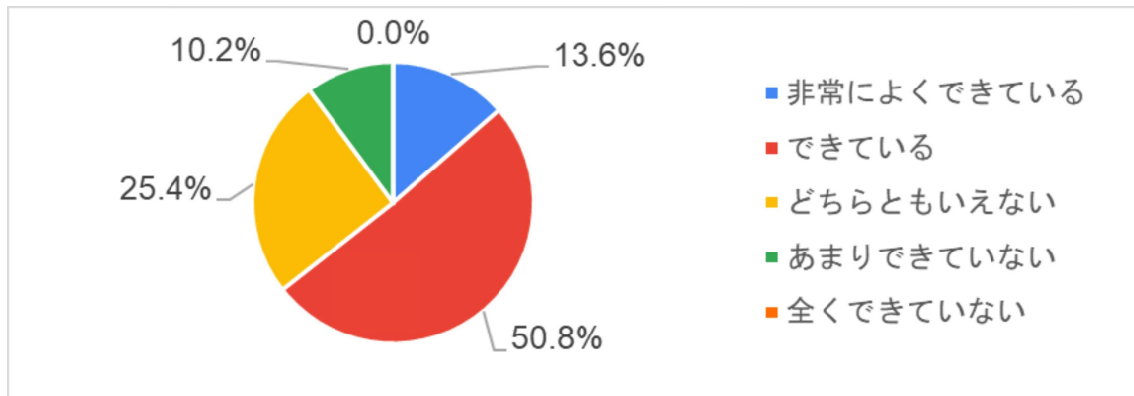
⑫学び続け、専門性を高めようとする姿勢



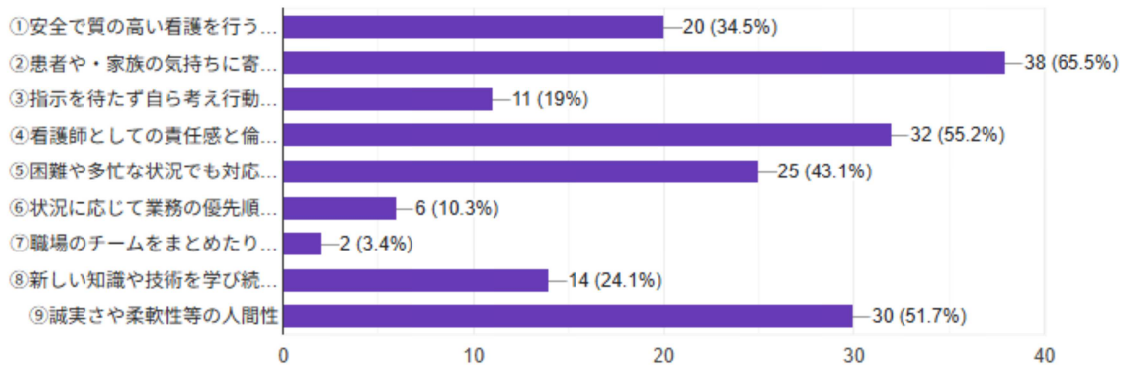
⑬報告・連絡・相談の適切さ



⑭勤務態度や自己管理能力の安定性



2 今後、本学卒業生に特に求める資質・能力を以下の項目から3つ選び、それぞれについて理由をご記入ください。



上記回答の理由につきましては、同趣旨の内容を整理・統合のうえ、以下に概要として記載させていただきました。

- ① 安全で質の高い看護を行うための知識・技術・判断力
  - ・看護は患者の生命や健康に直接関わる専門職であり、安全で質の高い看護を提供するためには、基礎的な知識・技術および適切なアセスメント能力が不可欠である。
  - ・学生のうちに基本的学力と看護技術を確実に身につけ、根拠に基づいて考え行動できる力を養っておいてほしい。
  - ・知識・技術が備わっていることで、先輩看護師や医師との連携が円滑になり、チーム医療の質向上にもつながる。
  - ・日頃から「なぜそう判断するのか」を考える姿勢を持ち、対象を全人的に捉えた看護実践ができる基礎力を養うことが重要である。
- ② 患者や家族の気持ちに寄り添い信頼関係を築くコミュニケーション力
  - ・看護実践の基盤はコミュニケーションであり、信頼関係が構築できなければ質の高いケアは提供できない。患者・家族の立場に立ち、気持ちを汲み取りながら必要な情報を引き出す力が求められる。

- ・実習段階から対話経験が不足している場合、入職後に患者との距離感や対応に苦慮する傾向がみられる。短時間で相手のニーズを把握する力も重要である。
- ・業務多忙時でも態度に配慮し、感情に左右されず丁寧な対応ができる対人姿勢を養う必要がある。
- ・コミュニケーションから得られる情報はフィジカルアセスメントと結びつき、看護実践の質を左右する重要な要素である。

### ③ 指示を待たず自ら考え行動できる主体性

- ・指示待ちではなく、自ら考え判断し行動する姿勢が求められる。主体性は専門職としての成長や自己研鑽の基盤となる。
- ・自身の強みや課題を認識し、必要時には相談や自己開示ができる姿勢もチームの一員として重要である。
- ・発言する勇気や積極性を養い、心理的安全性のある環境の中で主体的に力を発揮できる人材育成が望まれる。

### ④ 看護師としての責任感と倫理観

- ・看護師は生命と尊厳を守る専門職であり、責任感と倫理観は不可欠な基盤である。
- ・知識不足によるインシデントも、確認・相談を徹底する責任ある行動によって予防できる。
- ・守秘義務の遵守や人間尊重の姿勢など、勤務態度や患者への接し方に表れる倫理観を学生のうちから育ててほしい。
- ・この基盤があれば、その他の能力は臨床でさらに伸ばしていくことが可能である。

### ⑤ 困難や多忙な状況でも対応できるストレスコントロール力や体力

- ・多忙な業務、多職種連携、人間関係、患者対応など臨床現場には多くのストレス要因があるため、自己の傾向を理解し内省できる力、レジリエンスやストレスコーピング能力が重要である。
- ・ストレス耐性の弱さやメンタル不調により休職・早期離職につながる例もみられるため、学生のうちから自己健康管理能力を身につけておくことが望ましい。
- ・患者からの厳しい言動などに直面しても、経験を通して学び、しなやかに立ち向かう強さを養ってほしい。
- ・チームの一員として役割を果たすためには、心身の健康が基盤となる。

### ⑥ 状況に応じて業務の優先順位を判断できる計画性

- ・イレギュラーな事態や多重課題の中で、優先順位を判断し計画的に行動する力が求められる。
- ・実行可能な看護計画を立案し、状況に応じて柔軟に修正できる実践的な計画性を養ってほしい。

- ⑦ 職場のチームをまとめたり支えたりするリーダーシップ
- ・将来的にチームを支えまとめる立場となることを見据え、メンバーシップとともにリーダーシップを育むことが重要である。
  - ・リーダーシップも主体性と同様、心理的安全性のある環境の中で育まれるため、教育と臨床が連携して育成していく必要がある。
- ⑧ 新しい知識や技術を学び続ける成長意欲
- ・医療・看護は日々進歩しており、生涯学習が求められる職業である。
  - ・学び続ける必要性を理解し、自ら進んで知識・技術を高めようとする姿勢を学生時代から身につけておくことが重要である。
  - ・知識や技術は意欲があれば向上するが、その前提となる仕事への姿勢や柔軟な対応力を育むことが望まれる。
- ⑨ 誠実さや柔軟性等の人間性
- ・看護の中心は常に患者であり、誠実さや他者を尊重する姿勢は、信頼される看護師の基盤である。
  - ・自己中心的な言動ではなく、相手の立場に立ち、傾聴し、想像力をもって対応できる人間性を育ててほしい。
  - ・技術は経験によって向上するが、人間性や社会人基礎力は短期間では形成されにくいので、大学教育の段階で培っておくことが重要である。
  - ・状況に応じた柔軟性や、極端な思考に偏らないバランス感覚も求められる。

#### 複数項目にわたる理由・ご意見

- ・知識や技術は臨床で深化させることができるが、倫理観・人間性・社会人基礎力・ストレス対処能力などの基盤的資質は、学生時代に一定程度育まれていることが望ましい。
- ・主体性やリーダーシップは教育と臨床双方の連携のもと、心理的安全性を確保しながら育成していく必要がある。
- ・コミュニケーション力は看護師にとって最も重要な能力の一つであり、患者の代弁者としての役割を果たすためにも重視すべきである。
- ・教育機関と臨床現場が協働し、個々の成長を支える体制づくりが重要である。

3 本学看護学科について、ご要望やご提案がありましたらご記入ください。  
ご回答につきましては、同趣旨の内容を整理・統合のうえ、以下に概要として記載させていただきます。

- ・ 接遇やコミュニケーション能力は概ね良好であり、成長してリーダー的役割を担う卒業生もいる。今後も社会人としての基本的態度や対面でのコミュニケーション力、対人関係構築力のさらなる育成を望む。
- ・ 患者・家族、多職種、地域との連携を踏まえ、協働できる姿勢や交渉力、自己肯定感を高める教育の充実が求められる。
- ・ 看護計画立案や情報収集、アセスメント能力については一定の評価がある一方で、身体面を含むアセスメント能力の強化を期待する。
- ・ 根拠に基づいた看護を実践するための基礎学力および基本的知識の確実な修得が望まれる。
- ・ 基本的看護技術について、臨床現場と連携し、より実践に即したカリキュラムの構築や現場適応力を高める教育体制の充実が必要である。
- ・ 誠実さをもって患者・家族に寄り添い、延命処置等の説明ができる姿勢など、倫理的配慮や説明力を養う教育への期待がある。
- ・ 体力やメンタル面を含めた自己管理能力の育成、人間力の向上が重要である。個人差が見られるため、全体的な資質向上への取り組みが望まれる。
- ・ 教育機関と臨床現場との継続的な連携・協働を重視し、今後も優秀な看護師の育成と継続的な採用につながる関係性の維持を期待する。

## 雇用者（病院）アンケート調査結果のまとめ

### 1 入職時における卒業生の能力等について

アンケートでは看護師としての基本的な知識や技術は概ね評価していただいているものの、患者さんとのコミュニケーションや看護計画の立案、臨床現場での判断力・解決力等汎用的な力が問われる項目ではやや厳しい評価をいただきました。この点、別の実施しました卒業生アンケートでは、汎用的な力を含め比較的高い自己評価となっておりましたので、そのズレに特に注意しなければならないと考えています。調査対象とした卒業生は、ちょうどコロナ禍で実習にかなりの制限が加えられていたことや卒業生それぞれの個別差を考慮しても、学科教育の課題としてしっかりと受けとめていきたいと考えています。一方、病院での教育・研修への参加意欲については高い評価をいただいております。卒業生がそれぞれに課題は持ちつつも、臨床現場の厳しさを学びながら今後成長していくことを願っています。

### 2 今後、本学卒業生に特に求める資質・能力について

アンケートの中で、特に求める資質・能力を①～⑨の選択肢の中から3つ選び、それぞれについて理由を記述していただきましたが、多かったのが次の項目でした。まず②患者や家族の気持ちに寄り添い信頼関係を築くコミュニケーション力、次に④看護師としての責任感と倫理観、そして⑨誠実さや柔軟性等の人間性でありました。また、⑤困難や多忙な状況でも対応できるストレスコントロール力や体力もこれらに次いで多くの病院で選んでいただきました。

以上の項目はいずれも看護師としての大切な資質に関わるものであり、学科教員の思いと共通しております。ある病院からは何より大切なこととして「相手の気持ちになっての傾聴」や「相手の気持ちへの想像力」というご意見をいただきました。これらは一朝一夕で身に付くものではありませんが、学科といたしましては今後とも演習・実習等をはじめとして学生が様々な人との関わりの中で学んで行けるようしっかりと取組みたいと考えております。

一方、ある病院からは「自ら考え抜く力を大学（教育期間）で養って欲しいが、その力を発揮するには病院の環境が必要で、大学と現場双方の努力が必要」というご意見をいただきました。また、「現場により即したカリキュラムの実現」のため、病院と大学（教育機関）の一層の連携を求めるご意見もいただきました。

最後になりますが、病院様におかれましては、お忙しい中にもかかわらず、アンケートにご回答いただくとともに貴重なご意見をお寄せいただきましたこと、改めて御礼申し上げます。